

この街に
この人あり

荻窪の移り変わりと共に60年



風呂田 和枝さん

再開発を逃れた北口駅前通り商店街の中ほどにある喫茶店「邪宗門」を続けて60年の店主・風呂田和枝(ふるた・かずえ)さんをお訪ねしました。

喫茶店「邪宗門」は昭和30年にご主人の風呂田政利さんが内装から自分達で手掛けて始められた店で、政利さんが他界された後も和枝さん一人で続けられています。ドアを開けると「いらっしゃいませ」とやさしい笑顔で出迎えられ、手積みレンガの壁を見ながら目の前の細い階段を上ると、椅子やテーブルにも時の流れを感じます。落書きされた壁や飾られた古いランプや時計などに囲まれた、そこは昭和の香りがするノスタルジックな世界です。



喫茶店「邪宗門」 上荻1-6-11

これからも続けて欲しいですね

いつまでも続けてお客様を笑顔でお迎える気持ちで一杯です。おいしいコーヒーを飲みながら、ゆっくりと時を過ごす場所でもてなし出来るのが、私の最高の幸せです。



使い続けられた品々

お話を伺っているあいだも笑顔が絶えない和枝さんのおいしいコーヒーを頂き、ジャズの流れる店を後にしました。

店名【邪宗門の】由来は

北原白秋の詩集“邪宗門”から宗家(国立市)の故名和孝年さんが名付けました国立は閉店しましたがまだ世田谷など数軒あります。店主はいずれもマジックの仲間で、主人はオリジナルマジックで国内外のマジシャンと盛んに交流していました。



コーヒーの入れ方は昔も今も変わらない

地域の皆さんとの交流は？

60年も続けていますので昔なじみの方々や親子三代に渡るお客様があり、自分の好きな席で一人時間を過ごして「じゃ、また来ますね」と笑顔で挨拶されると嬉しいですね。最近はインターネットで見つけて遠方から若い人たちもよくお見えになります。これも店を続けているからこその出会いでしょうね。



時の流れを感じさせる席